



橋間 元徳

社団法人 日本海洋開発建設協会常勤顧問
(元開発建設部長)

沖縄在勤の思い出

「部長、お風呂はん一緒に食べませんか」

私が沖縄に赴任して初めての昼休みだったと思うが、秘書の山城久美子さんから声をかけられた。何人かの方も御緒されて、局内食堂の「芭蕉」で楽しむ食事になった。「芭蕉」と「ぬしゆいふ」「ソーキやな」などの沖縄料理も食べられる。また局内の多くの人が利用しているので普段個室にしてる私にとっては、「こんな人に会える場でもあった。

しかし、彼女達と話をしながら食べるの昼食はまた格別である。

その後も山城さんは私を誘ってくれたし、私も彼女達を誘って何度も昼食会を楽しんだ。そしてそれを機に私はいろんな方をも誘って楽しく昼食会をした。

沖縄では楽しく思ひ出がたくさんあるが、彼女達をはじめいろんな方と週に1回の昼食会を楽しんで樂しかったものはない。

「ここには開発建設部長室ですか」私が出張先ながら電話をかけた。秘書の伊是名真紀さんの明るい声が聞こえてくる。実際に気持ちの良い応対をしてくれるが、ともかくこの電話の第1声、「ここにちば」という言葉の響きが美しく良い。

在勤中多くの方が私を尋ねてきてくれだが、秘書のこの第1声を聞き



彼女に会ったくて
来てたどこう

人が何人
かいた。お
かげで私
のことま
でほめて
くださった
方がいる

「JのJにさ

ちは です」この電話の応対には、沖縄では良く出合へ。但し必ず女性の場合だ。電話のJの第一声に多くの男性が感激して、「JのJにさは、JのJにさは」を聞く。それだけが「もしもし」と言われるよつせいかに気分が良くなれば、電話の応対が全國に広まるだけだと実は期待してたのだが。

今でも私は沖縄に電話をかけて「JのJにさは」を聞く。それだけが「良かつた」と思う。

「恩納松下にちぢの碑の立ちしゅ
恋しぬぶまでにんちぢやねさみ」
群星荘の佐久本珍恵さんにいた

だいた恩納酒造の「ナビ」という泡盛の箱で初めてこの歌を知った。有名な女流歌人恩納ナビの首である。「恩納松の下に禁止の札が立った。恋までも禁止できなくてしそう」という意味だ。何とおおいかで小気味よい歌か。

私は、沖縄に来て初めて「琉歌」という定型詩があることを知った。



今から四百年も前に何人かの女流歌人が書はばらしの歌をたくさん残してた。また、沖縄でメロディーをつけた良くて歌われてて、「見晴話」「トランサグメ花」など多くの歌がその歌詞をよく読みみると琉歌なのだ。そして、今も綿々と受け継がれて作られている。沖縄の人からじたぐ年賀状や挨拶状に今まで琉歌を書いて下さる方がある。

普天間飛行場を見下ろす嘉数高台には平和を祈る多くの琉歌が刻まれてて、「これは戦後つくられたのであれば、心を打つ歌ばかりだ。沖縄の魅力は、単にサンゴの海がすばらしいことだけではなく、このよつせな伝統文化に支えられて、このかわいい奥が深く、また光り輝いてるのだと思つ。